

## Vol.6

発行元：NPO法人22世紀  
八幡ルネッサンス協会  
八幡市八幡高畑 10-76  
TEL・FAX 075-981-6505  
発行：年4回

## ◆ 目次 ◆

|             |      |
|-------------|------|
| 八幡に生きる      | … 1  |
| 政治のはなし      | … 2  |
| 少年犯罪と少年法    | … 3  |
| 宗教と社会       | … 4  |
| 創作彫刻        | … 5  |
| 八幡 俳句歳時記    | … 6  |
| 文学でたどる八幡の歴史 | … 7  |
| 八幡の鳥        | … 9  |
| 大谷川清掃物語     | … 10 |
| 木津川の水質      | … 11 |
| 編集後記        | … 12 |

八幡に  
生きる六丸&つくしの  
八幡とのお縁

渚家六丸



1974年（昭和49年）10月26日。秋の日差しに輝く石清水八幡宮の神殿において六丸&つくしの結婚の儀が厳かに執り行われました。  
明くる1975年（昭和50年）

に長男、1977年（昭和52年）に長女、1979年（昭和54年）に次男、1984年（昭和59年）に次女が全て石清水八幡宮にて初宮参りを行わせていただき、お陰様にてそれぞれの子供たちは、それなりにファミリーを営んでおります。一方、我々六丸&つくしは男山泉に居を構えて今年で44年になります。

同地区の自治会集会所「ふれあいセンター」泉「発足当初より、地元の皆さまのご厚意で春の「新春寄席」、夏の「納涼寄席」の年2回の定例寄席を開催して頂き、毎回新しいネタを披露させて頂いております。また、11年前からは特に春の「新春寄席」はより多くのお客様にお越しただけるようにとのご配慮で、八幡市のI様のご尽力もあり、場所を史跡「松花堂庭園」に移して3月に春の「ひな祭り寄席」、ふれあいセンター泉では5月に「さつき寄席」と、名前も新たに引き続き興行させて頂いております。

きん玉簾同好会を結成。現在20名程のメンバー（小学校3年生から88歳の高齢者まで）で寄席の色物として、また、市役所・神社仏閣での催事、はたまたプロバスケットゲームのハーフタイムショーでの出演等と幅広く活躍しております。

六丸は現在古典落語に加えて新たに色々な創作落語や、はたまた、腹話術と落語のコラボ演芸等、新しいジャンルの芸の開発をライフワークの一環として楽しんでおります。

しかし、これも全てお聴き頂き、楽しんで頂けるお客様あつてのライフワークだと思っております。

その点わが町八幡では、有難くも色々な機会に我々の拙芸を楽しんで頂ける皆さま方にお会いすることができて本当に幸いです。

このように市内で色々な寄席活動を行わせて頂いているご縁で、5年前より府立八幡高校の3年生を対象とした表現科学コースで落語を活用してコミュニケーション能力の向上育成を図ろうと、「落語実技体験」で

日々若い生徒諸君の指導も楽しませて頂いております。

最近の忘れられない八幡さんとのご縁としては、会社のOB会で石清水八幡宮の竹林整備活動のご縁で、3年前より毎年9月15日に行われる神事「石清水祭」で、つくしが神人の着付けのお手伝い、六丸は御綱曳神人（深夜にご鳳輦の朱綱を持って八幡の山を降りる役目）を担わせて頂き、大変光栄に思っております。

このようにサラリーマン現役時代卒業後の70歳になっても「落語や」なんきん玉簾「腹話術」等の趣味の世界で、現役時代よりもさらに楽しく充実した活動ができるというのも、一重にこの暖かい八幡の町の皆さまとしっかりとご縁を結ばせて頂いたお陰と、日々感謝の日を送っております。

今後も今まで培ったご縁を大切に、八幡の皆さまに更に喜んで頂ける芸の研鑽に、日々精進してまいりたいと思っております。

## 政治の話

しまししょう

第6回

## 「天皇の代替わり」

を考える(その2)

日本キリスト教団牧師

千葉宣義

明仁天皇の動向についての報道で、「平成最後の…」という見出しが多くなった。天皇制という制度は、明治以降とそれ以前では大きく異なっている。天皇制の長い歴史では、いわゆる「生前退位」もそう珍しいわけではない。「上皇」「太上天皇」といった呼び名は、生前退位した天皇の称号である。しかし、日本国憲法及び「皇室典範」には、その規定はない。従って今回の生前退位・代替わりには、それが法的に妥当なのかという疑義が当然ながら出されてもいる。今回は、その辺りの問題を述べてみたい。

日本国憲法(以下、「憲法」)第2条は、皇位が「世襲」であること、その継承は「皇室典範」の定めるところによるとする。また、第5条には「皇室典範の定めるところにより摂政を置く」ときのことに触れ、「摂政は、天皇の名で国事に関する行為

を行う」とある。「憲法」上は、生前退位の条項はない。ただ「摂政」を置くことは想定されている。ここで述べられている「皇室典範」とは、戦前は帝国憲法よりも上位のものとして重視されていたと言われるが、戦後はGHQによって廃止され、1947年5月3日、「憲法」施行とともに「法律第3号」として施行され、一般法と同等のものとしてされている。

この「皇室典範」(以下「典範」)の第1章が「皇位継承」となっている。その第1条「皇位は、皇統に属する男系の男子がこれを継承する」と。この条項の問題については、ここでは論じるとまはないが、天皇夫妻に男子誕生が執拗に求められているのは、この条項を満たすためである。「典範」第4条は「天皇が崩じたときは、皇嗣が直ちに即位する」とある。これは天皇の死による代替わり規定である。「典範」は、第2章が「皇族」についての規定で、第3章が「摂政」の規定である。その第16条「天皇が成年に達しないときには、摂政を置く」とし、第2項で、「天皇が精神若しくは身体の重患又は重大な事故により、国事に関する行為をみずからすることができないときは、皇室会議の議により、摂政を置く」として

いる。天皇の代替わりについての規定はこの2つ、「天皇の死」と「摂政」既定である。従って、今回の代替わりは、従来の法的規定を越えている、という問題があった。

では、どうするのか。結局「典範」の特別法を加えることになる。このこと自体が、天皇の「国政に関する権能」を否定する「憲法」第4条に抵触するのではないかという意見は、多く憲法学者から出されている。しかし、国会では、全野党も含めて全会一致で「典範」の「特例法」を決定している。この「特例法」の第1条は、異常に長いもので、天皇の気持「国民」の天皇の気持への共感と「敬愛」、皇太子の年齢(57歳)等に触れ「典範」の第4条(天皇の死)の特例として、この退位と皇位の継承を認めている。

さて、天皇の2016年8月8日の「象徴としてのお務めについての天皇陛下のお言葉」なるものの中心的な主張は、前回も述べたように、天皇の高齢化、病い、体力の衰えで、「象徴としてのお務め」なるものが果たせなくなったので退位したいということである。もちろん、「退位したい」という言葉はないが、この「お言葉」から「付度」して、退位可能

な法的処置を図ったのである。しかし、ここで天皇が語る「象徴としての務め」とは何かということである。

天皇の行為は、「憲法」第6条(任命)、第7条(10項にわたる国事行為)で規定されている。特に、第7条の10項目には、たとえば「被災地訪問」、「戦跡めぐり」、「外国訪問(元首的訪問もある)」などは挙げられていない。また、国体・植樹祭・海づくり大会等全国めぐりの戦後「巡幸」的行動も国事行為を越えている。こうした行為については、これまでも「国事行為」を越えて憲法違反となるという指摘はなされてきたが、政府はこれらを「公的行為」と勝手に呼んで公費を支出してきた。天皇自身もこうした行為を「象徴天皇としての務め」として、「憲法」の規定を越えたものであることを弁明したわけではない。識者によつては(特に、天皇擁護派)、天皇の身体、病い、高齢化の問題は「典範」第4条(天皇の死)よりも第16条(摂政条項)の方がふさわしいという意見、また、天皇は「国の安全・平和」のため祈るだけではないといった意見なども出て、こうした議論は未解決のままである。つまり、「公的行為」なるものを軽減すればすむものである。へ

くにもかかわらず、代替わりは政治的に進められている。この事態から浮上したものは、そもそも「憲法」の基本原則、主権在民、人権主義、平和主義に天皇を位置づけることが本当にできるのかという疑問であろう。今回は少し、そうした問題を考えてみたい。

## 少年犯罪と少年法 ④

約3割の再犯者によって、約6割の犯罪が行われている

### 播磨義昭

少年法20条の「逆送規定」(※)により刑事裁判を受ける犯罪少年もいますが、家庭裁判所で少年審判に付される犯罪少年には前科が付きません。世界各国に較べて日本の治安が極めて良好であることは、様々なデータから明らかになっていますが、日本における犯罪件数が少ない要因の一つとして、「少年非行が成人犯罪につながらないことが、日本の治安の良い理由の一つである」(『犯罪をどう防ぐのか』(龍谷大学教授 浜井浩一の記述))と考えられています。

平成24年7月20日の犯罪対策閣僚会議において策定された「再犯防止

に向けた総合対策」は、昭和23年以降の犯歴100万人(犯歴の件数は168万459件)を対象とした調査の結果、総犯歴数別の「人員構成比」では、初犯者が71%を占め、繰り返し犯罪を犯す再犯者は29%にとどまるのに対し、「件数構成比」では、再犯者による犯歴の件数が58%を占めており、このことは、約3割の再犯者によって、約6割の犯罪が行われているという事実を示している。との調査結果から、「再犯防止のための重点施策」として、刑務所出所者等の「居場所」と「出番」の重要性を説いています。「居場所」は住居で、「出番」は就労の確保です。本来、「居場所」が意味するものは住居の確保にとどまるのではなく、本来、「出番」が意味するものは就労の確保にとどまるものではありませんが、住居の確保と就労の確保は、元受刑者の社会復帰における最低の条件ですので、元受刑者の住居の確保と就労の確保が困難な状況を放置することは、「彼等を再び犯罪の道に追いやることになる」といっても過言ではありません。

2013年2月に「職親プロジェクト」がスタートし、平成28年11月から「コレワーク」(矯正就労支援情

報センター)の運用が始まり、「前科者」の就労確保施策が少しずつ前進しています。が、「前科者」にとって、社会復帰における最も大きい壁は就労の確保です。

このことは、犯罪少年の更生についても同じことが言えるので、家庭裁判所で少年審判に付される犯罪少年に前科が付かないことは、決して悪いことではありません。犯罪を防止するためには、再犯防止と犯罪少年の更生が極めて重要です。犯罪被害を減少することが重要であることは勿論のこと、犯罪少年の更生(社会復帰)が失敗に終わり、再び犯罪の道を始め検挙され受刑者になると、1人当たり年間300万円の税金が必要だと言われています。

犯罪少年が更生し、社会復帰するために様々な援助が必要ですが、「居場所」と「出番」の確保を援助し、彼等を普通の納税者にすることは、再犯防止による社会防衛と共に極めて重要です。検挙された非行少年のうち約10%の少年が少年鑑別所に送致され、そのうちの約30%の少年が少年院送致になり、少年院送致となる者は非行少年全体の約3%です。

ところが、過去に私が出会った全ての少年院経験者は「普通の少年」で

非行少年のエリートとも言われる少年院経験者に、非行少年の面影が全く見出せませんでした。「セカンドチャンス!」という少年院経験者の自助グループがあり、少年院経験者が少年院出所者の社会復帰の援助をしています。「セカンドチャンス!」京都集会で出会った少年院を2度経験した複数の青年にも、犯罪者の面影を全く見出せませんでした。

しかし、少年院経験者と知って少年院経験者と出会う機会は殆どないことから、多くの人が少年院に送致される少年を「凶悪犯罪者の予備軍」と捉えています。少年院に送致される少年を「凶悪犯罪者の予備軍」と捉えると、少年院経験者は「普通の少年」とは異なる危険な存在で、「危険な存在にはできるだけ接触しない方がよい」との考え方から、少年院経験者に対する援助をしようという人がいなくなり、少年院経験者の社会復帰が順調に進まない、彼等を犯罪者への道に進ませることになります。

※「逆送規定」とは、家庭裁判所が刑事処分相当と認めた少年事件を検察庁に送致する少年法の規定。2000年の少年法改正により、16歳以上の少年が故意の犯罪により被害者を死亡させた事件は原則逆送することになった。

# 宗教と社会

3

浄泉寺住職 大原光夫

世界の三大宗教といえば、仏教・キリスト教・イスラム教です。これらを宗教の専門用語では、「普通宗教」と言います。つまり、民族性や言語、文化の違いを越えて広がっている宗教のことです。

今回はイスラム教についてです。意外かも知れませんが今、世界で最も勢いよく広がっている宗教はイスラム教です。イスラム教の坊さん（イスラム教は専門職、つまりお寺の坊さんや教会の神父・牧師さん職はいません。すべて、ムスリム・イスラム教徒の意。女性はムスリマ）、わかりやすく坊さんとはここでは言っておきます。

神戸に日本最古のモスク（イスラム教寺院）があります。80年を超える歴史があります。私はこのモスクの「坊さん」と少し交流があります。今回は、皆さんがイスラム教についての知識で、ジハード（聖戦）、「目には目を、歯には歯を」など、耳に残るイスラム教のお話をします。

さて、少し乱暴ですが、イスラ

ム教の系譜は、ユダヤ教から発祥し、両腕のようにキリスト教・イスラム教が誕生していったものと理解してください。そして、当初はスンニ派だけでしたが最も厳しい戒律から少し「ゆるめ」のシーア派が別れていきました。トルコでは近年、シーア派よりも、さらにさらにゆるやかなアリエー派が急速に広がっています。アリエー派はモスクの礼拝も男女同席で、女性にも教育が施されています。ラマダンも1カ月を短縮して10日程度にと、戒律がゆるゆるになっています。（2年前、私がトルコで調査。今は危なくて行けません）

このように、次第に戒律がゆるやかなスタイルに変化してきています。その理由はアラビアの厳しい砂漠環境に対して、エーゲ海へのぞむ豊かな温暖気候のなかで厳しい戒律が生活になじまなくなり、その環境に適したイスラム教の姿が形成されてきているものと考えられます。

そこで、まず「スンニ派とシーア派の対立問題」です。日本の報道では、ほとんどがスンニ派とシーア派の対立構図で事件が報道されます。しかし、神戸のモスクの坊

さんは、「スンニ派とシーア派の対立はない」と言い切ります。私もかなり時間をかけて議論した結果、イスラムの坊さんの主張する意味がわかりました。結論を申し上げますと、報道されているような対立はありません。どういふことかと言いますと、私は浄土真宗の僧侶です。町を歩いていて、あそこは真言宗だ、ここは日蓮宗の家だということで、玄関に石をぶつけたり窓ガラスを割ったりはしません。禅宗のお家からお嫁さんが来たからといって袋叩きにすることもありません。これと同じように、日常生活ではスンニ派・シーア派はなんの摩擦もなく和やかに暮らしている、ということです。

では、どうして日本の報道はほとんど対立構図で知らされるのか？ イスラムの坊さんとの検討結果は、歴史的にたどりまると、サウジ関係の石油利権をめぐる、アメリカが介入してきたから、利益の代弁をスンニ派団体・シーア派団体を取り込んで対立軸を構築したことが始まりのようでありま

す。実は、日本に在住している坊さんにとって、このことはあまり言いたくはなかったようです。しかも、報道陣は単純な構図が伝えやすいため、本当は利権や経済分野の問題なのですが、宗教名称を利用して盛んに報道したということです。日本の報道に「ゆがみ」があると云々ざるを得ません。

次に、有名な「目には目を……」です。私の年代では、学校でイスラム教というのは「左手にコーラン、右手に剣」、「目には目を、歯には歯を」という、強制と報復の宗教だと教えられていました。

ここで、先にコーランの原文（日本語訳）を紹介します。「生命には生命、目には目を、鼻には鼻を、耳には耳を、歯には歯を、すべての傷害にも（同様の）報復を。しかし、その報復を許すならば、それは自分の罪の償いとなる」（食卓章・45）。さらに、教義理解では「上限を示すもの」となっています。つまり、目に危害を受けたら同様の目まで。決して、相手を蹴ったり、袋叩きしたりしてはいけないということです。さらに、報復しないなら、自らの罪を無くすことにつながる。つまり、報復を我慢して争いを避けることをすすめています。小さい頃に教えられたイスラム教とはまるで違います。

# 創作彫刻

― 仏教の教えを彫刻に

2

加藤錠治

## 二足の教え



板橋興宗は著書『即身仏』に、足には相反する「足る」と「足す」という意味があると述べている。人は仏と鬼の二つの足を持つているので、自己都合で左右の足を使い分けられないようにしなければならぬ。竜安寺のつくばい蹲、「吾唯足るを知る」になぞらえて、「君吁足すを加える」という教えを創作した。前者は白衣観音を、後者は餓鬼をもつて表現し、二足の教えを表した。「足るを知る」ことを「知らない」と貪りの人生になる。知足の人生を歩みたいものである。

## 月のうさぎ

「月に兎がいる」という伝説は仏教の説話によるもので、今昔物語にも語られている。

伝説は狐と猿、兎が力

尽きて休んでいる老人に出逢い、三匹は老人を助けることにする。狐は川から魚を、猿は木の実を取って老人に与えるが、兎には取ってくるものがない。そこで狐と猿に火を焚いてもらい、自ら火の中に入って身を食料として老人に捧げた。実は、老人は帝釈天の化身であり、帝釈天は兎の捨身の慈悲を後世に伝えるため、兎を月に昇らせたので今も月には兎が住んでいるとのことである。

魚をくわえた狐、柿を手にした猿、焚火の上に兎を配置した。兎のいる月に鏡を入れて老人が帝釈天の化身であることを表すために、老人の背中に帝釈天を彫って鏡に映しだした。



## 念彼観音力

菩薩の威神力が荒れる大海に届くよう中央に白衣観音を配置した。菩薩の暖かい慈悲をあらわすため光背も本当の光を背面から当てた。点滅豆球を用いて光を強調した。

観音経には、「荒れ狂う大海に漂流し、龍や怪魚に出会っても観音菩薩の力を念ずれば、波の中に没することはない。」という比喩が書かれている。これを題材にレリーフとして製作した。観音経の「法華観音品」に大海の中で漂流して、龍や怪魚や鬼などに襲われても、観音の救いを心から念ずれば、波の中に没するようなことはないという一節があるので、雲の中に龍を、荒波の中に鼻先に一角をもった怪魚を彫った。

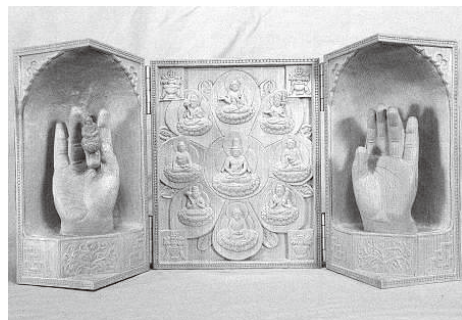


## はじき仏

仏の手を左右に、胎蔵界のまんだら曼陀羅を中央に配置したもので、我々の願い事を大きな

左手で受け留め、その願いに応じた仏を右手ではじき与えて下さるという教えを表現した作品である。曼陀羅には多種多様な仏が存在しているので、望みの仏をいただくには曼荼羅が都合と考えて、中央に曼荼羅を彫ってみた。

三面開き箱形にするため、中央に曼荼羅図を、右側に仏の左手を、左側に指先に「はじき仏」を乗せた右手を配置した。これら三者を消し金のちようつがい蝶番でつなぎ、開けたり、畳んだりできるように工夫した。正面には厨子に使用するような留金を付けた。これも蝶番と同様に消し金を用いた。



# 八幡俳句歳時記 2

蕪村―モダン!の楽しさ

小笠原信

与謝蕪村は、松尾芭蕉（1644（94年）に72年遅れて生まれた。芭蕉没後に活躍しているのである。この前後の順番は重要。芭蕉俳句の前に蕪村俳句が在ったのではない。

芭蕉は、その生涯がまさに50年で、蕪村は68年だったこともあり、また、芭蕉の場合、句歴の前半が連句中心であったこともあって、遺された句（発句）が973句と、蕪村の句数の3分の1以下である。

芭蕉は、幾度もの長期の歩行旅、弟子達の指導、弟子間の争いの調停と、まさに東奔西走の日々を送った。芭蕉は、温厚柔和な俳諧老人ではなく、まさに「闘う人」だった。

闘いの中心課題は、伝統的俳諧からの「変革」。その成果が「古池や蛙とびこむ 水の音」。さらに芭蕉が挑戦したのが、「主観写生」と言えるであろう。これ等の闘いの総合的実践が、ご存知『奥の細道』である。

〈閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声〉  
〈夏草や 兵どもが 夢のあと〉。そして「塚も動け 我が泣く声は 秋の風」。この塚の句や、〈猿を聞く 捨子に秋の 風いかに〉の句は、芭蕉が「闘う人」だったからこそできた句と感心する。言わば、芭蕉の俳句は、「純文学俳句」である。

芭蕉が道巾広く拓いた後に、蕪村や一茶が続いた。荒っぽい譬えだが、一茶の句は「私小説俳句」、蕪村は（橋本治氏にならって）「大衆小説俳句」と言えそうに思う。

少し後から来た蕪村だが、彼は俳画の開拓者である。屋根に積もった雪までも温かそうに『夜色楼台図』で描いている。そう、蕪村の俳句は「絵画的俳句」と言える。しかし、その根底には、芭蕉俳句についての猛勉強がある。ぼくは、自分流に「佳句手控帳」を作っている。芭蕉の佳句の筆頭は〈閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声〉である。最も好きな蕪村の句は〈涼しさや 鐘を離るる 鐘の声〉。この2つの句は、上五中七下五がまさに相思相愛、深く照応している。蕪村の芭蕉への敬愛の見事な、そして大胆な表現。羨ましいほどである。

そして、蕪村が打ち出した新機軸

が「絵になる俳句」。有名な〈菜の花や 月は東に 日は西に〉〈夏河を越すうれしさよ 手に草履〉。いささか意味深な〈箱出たる 貌忘れめや 雛二対〉の句も、一幅の絵になる。しかも明るい色柄。

芭蕉の句が「純正な日本画」とするなら、蕪村の句は、「近代絵画・モダン絵画!」。すぐに浮かぶのは、百年後のロシア生れのフランス画家シャガールである。音楽で言えば、約30年後のショパンだろう。

「モダン」をどう定義するかは難しいが、ここでは素人の大胆さで、「自我・個人意識と遊び心の誕生」としておく。「モダン」を別の言い方で「ハイカラ」と言っても許容されそうである。蕪村の句の基調は、この「モダン」。もちろん、江戸中期という時代背景もあるだろうが、モダンな感性の発露が蕪村の大手柄である。

蕪村の句のぼくの第2位は、〈月天心 貧しき町を 通りけり〉。季語は「月」で秋。この句を大正、いや昭和の俳人の作だとしても頷ける! 「月は天心(天の真中・天頂)に晴々とあつて、私(旅人・作者)が、貧しい町を通つたのですよ」と読める。同時に、天心の月を主体としても読める二層構造。貧しい町は、夜更けの八幡の町

かも知れない。

月も貧しい町も自在に扱っている! 純文学でも私小説でもない蕪村の柔軟性、開明性。「貧しい町」に悲憤も、湿った同情もない。在るのは、平明さ、温かさ、平常心、距離感。つまりモダンな感じ。あまりにモダン過ぎて、同時代の人々にも俳人仲間にも評価されなかったかもしれない。しかし、当の蕪村は、平然としていたであろう。

〈愁ひつつ 岡にのぼれば 花いばら〉等のモダンな句を（江戸中期の京都の文化サロンという存立基盤があったにもせよ）、蕪村だけが頭抜けてモダンな句の頂をなぜ作り得たのか? 残念ながら単なる俳句愛好者には把めていない。どなたかご教示ください。



文学でたどる

## 八幡の歴史

第6回

新月やいつを昔の男山 その3

土井 三郎

## ■名所案内記に見る男塚・女塚

頼風と女郎花の「悲恋の物語」は、平安時代の初期に『古今和歌集』が生まれ、その注釈書が鎌倉時代に出て、それを元に、謡曲「女郎花」が室町時代に出来て盛んに上演されるようになったことから人々に認識されるようになります。但し、庶民が能を日常的に観ることはありません。頼風と女郎花の物語は、江戸時代、観光案内を通じて庶民に広がったといえます。

観光案内の決め手は地誌と石碑（石塔）です。

江戸時代の半ばから数多くの地誌が編集・発行されました。地誌とは、ある地域の自然・社会・文化などの地理的現象を記述してその地域の特色を示すものですが、江戸時代、全国街道や航路が整備され、物資の流通とともに、人の往来が盛んになる中で、観光案内を兼ねた名所図会が江戸と京都、大坂でさかんに刊行

されるようになるのです。

八幡の観光案内といえば、石清水八幡宮がトップに掲げられますが、正法寺や神応寺などの寺院の他、「男塚（頼風塚）・女塚」も観光名所としてクローズアップされます。

以下、名所案内記に男塚・女塚がどのように紹介されているのか見てゆきます。

○洛陽名所集（1658年頃刊、山本泰順著）

第六巻に、八幡が特集されており、6番目の項目に「男塚女塚」があります。

「是は八幡の町のかたはら也 平城天皇の御時小野頼風と云人。八幡にすみ。女を京にもちて。たがひに行かよひけるに。或時。頼風京の女にいたり。いついつの頃とちぎりかへりぬ。其日にあたり。女まぢけれど。こざりければ。女八幡の男なる人の宿にたずね行てとふに。家なるものこたへて。いひけるは。此ほどはじめたる女房まします所に。行たまふとあれば。此女うらめしと思ひ。八幡川に身をなげ。（中略）さてこそ夫婦を葬り。男塚女塚と云也。おとこ山によめるもこの儀なり」（傍線は土井）

「八幡の町のかたはら」とは具体的にどこを指しているのか定かではありませんが、『洛陽名所集』より約百年後に書かれた「八幡山上下惣絵図」には、「頼風墓 男塚」と「女郎花 女塚トモ云」がともに記されています。

『京都府立大学文化遺産叢書第四集』に、それをトレースした絵図があるので掲載します。絵図にある「血洗池」は現在、八角堂が建つ辺りの窪地で、西車塚古墳の周溝の名残と思われるます。女郎花塚Ⅱ女塚は、松花堂庭園内にある「女郎花塚」を想定するのが自然です。松花堂庭園の造成に関わって庭園内に移動されたものでしょう。ちなみに、万称寺とは、現在の中ノ山墓地にあった寺院を指します。

では、男塚は、今どこにあるのでしょうか。八角堂から南50mのマンション近くの小さな畑地の一角にあります。但し、灌木に覆われており、写真に撮ることもできません。

○出来斎京土産（1677年刊、浅井了意著）

巻之七に八幡が登場しますが、項目は、「八幡」（神社）と「男塚女塚」だけです。男と女のストーリーは『洛陽名所集』とほぼ同じです。

○雍州府志（1686年頃、黒川道祐著）

同書は、地域別ではなく部門別に構成されていて、男塚・女塚のことは、巻九（古跡門下）に収録されています。『雍州府志』は全文漢文です。漢文で、頼風と女郎花の物語が綴られ、「男山ノ塔 男山ノ南、万称寺ノ前二在リ」と明示されています。また、「河水」に身を投げたのが京の女ではなく、男山の妻の方になっています。著者が生きていたころ、八幡では、入水したのは京から来た女ではなく、地元八幡の本妻であると認識されていたのでしょうか。（次頁へ続く）

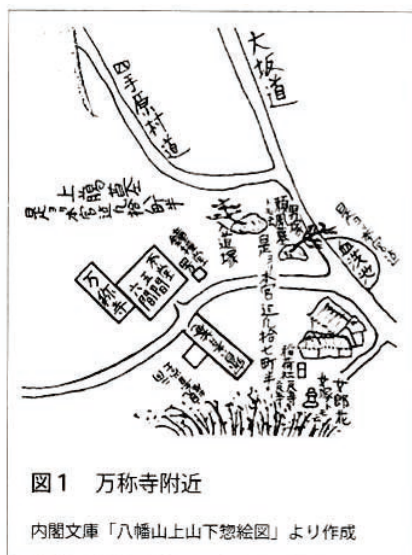


図1 万称寺附近

内閣文庫「八幡山上下惣絵図」より作成

(前頁より続き)

## ■今田の頼風塚の登場

万称寺周辺の男塚(頼風塚)と女塚(女郎花塚)は出てくるのですが、八幡今田、即ち、八幡市民図書館付近にある「頼風塚」はなかなか登場しません。

1711年に刊行される『山州名跡志』には、「志水ノ南五町許ニ在リ」とあります。志水を正法寺が建つ清水井としてそこから500mばかり南に下れば確かに八角院が建つ大芝周辺になります。だが、今田にある頼風塚は、清水井から約800mほど北に存在します。その間実に1300mの隔たりがあるのです。今田の頼風塚は地誌にいつ登場するのでしょうか。

『山城名勝志』は同じ1711年に刊行されますが、気になる記述がみられます。

「女塚 清水南十町許ニ在リ、土人其地ヲ女郎花ト曰、墳ヲ女郎花墓ト呼ブ、小野頼風妻古墳ト云、今一所放生河上、土人涙川ト云、此川南端八幡山下町筋ヨリ東ニ又女塚と號スアリ」(傍線は土井)

「今一所」は八角院が建つ大芝ではなさそうです。江戸時代に書かれた

「八幡山上山下惣絵図」には「涙川」の記載があり、現在の八幡小学校の東脇を流れる川が想定されます。いずれにしても、八幡大芝とは別の所、八幡の「山下町筋」に「女塚」があると読み取れます。どうもそれが「頼風塚」を指すようです。

平凡社版『京都府の地名』では、「山城名勝志」は女塚と称しているが、これは頼風塚とすべきものであったと記しています。

『都名所図会』は、「京都の地誌の世界に变革をもたらした」と言われます。出版されたのが1780年、著者は秋里籬島で挿絵は竹原春朝斎。「鳥瞰図」という新鮮な挿絵が人気をよび、原版を四回以上作り替え、万の位の発行部数を誇った」といわれます。『地誌に見る八幡』伊東宗裕

「女郎花塚」は、巻之五にあり、「人皇五十一代平城天皇の御時小野頼風という優人男山の麓にすめり」から始まり、これまで同様のストーリーが語られるのです。面白いのは、次の個所です。

「かの女(女郎花) 八はたへ尋ゆきて頼風が事をとふ、あたりのさがなきもの答て此ほどはじめたる女房ましますが其所へ行給ふといふ、女うらめしくおもひ、胸せまり遂に放生川

の端に(後略)。」

現地の者から意地悪され(頼風は)最近親しくなった女と一緒に暮らしていると言われ、女郎花はうらめしく思い、放生川に入水したと記すのです。

『都名所図会』が一大ベストセラーともなれば、頼風と女郎花の悲恋は一層尾ひれをつけて広がったというものでしょう。和歌と俳諧が添えられます。

女郎花うしと見つそゆきす  
くる

おとこ山にしたてりと思へば  
ふるのいまみち

哀なり餓鬼にもならず女郎花  
班升

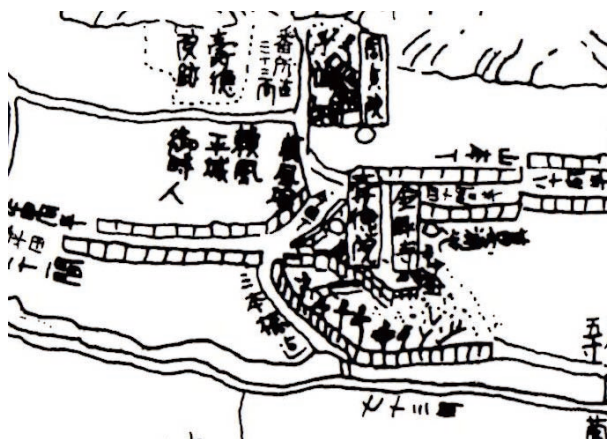
『都名所図会』の発行から7年後、『拾遺都名所図会』(著者・挿絵ともに『都名所図会』と同じ)が発行されます。『都名所図会』の続編として刊行されたもので、巻之四に「頼風塚」が登場します。

「頼風塚 八幡金剛寺前町人家の裏にあり、由緒前編に見へたり」

由緒は、前編の『都名所図会』にありとし、「頼風塚」そのものは、八

角院のある大芝から離れて、八幡今田の地に明記されるようになったのです。

金剛寺とは、八幡市民図書館周辺に建っていた律宗寺院で、その前の「町人家」とは、まさしく現在の和菓子商「じばん宗」ですが、同家に伺うと創業は幕末期だとのこと。文化十一年(1814)の年紀のある古図にも頼風塚が描かれています。そこには、なんと「頼風、平城御時人」と注釈する念の入れようです。



# 八幡の野鳥

6

## 鳥の夫婦

八幡自然塾 顧問 金田 敦男

若い男女が結婚しました。挙式を終え、披露宴の席に着くと、仲人のお祝いの挨拶が始まり、次の言葉で締め括られました。

「ここに素晴らしいオシドリ夫婦が誕生しました。誠におめでとうございます。」

オシドリが水上でオスとメスが仲睦まじく寄り添う姿はよく観られますし、写真に撮られ、絵にも描かれることが多くあります。ここに人間の誤解があります。もちろん、この2羽は仲がよいこともありますが、オスがメスに常に寄り添っている行動の一番の要因は、他のオスにメスが取られないようにする警戒の行動なのです。メスを確保し、交尾を済ますと、オスはさっさとメスのもとから離れていきます。残されたメスは単独で樹洞に巣を造り、産卵、抱卵して、卵を孵化。そして育雛し、独立させる。これがオシドリの夫婦

の実態なのです。



オシドリ

この新婚夫婦は、以前から野鳥の知識が豊富だったので、冒頭の仲人の言葉を複雑な気持ちで聞いていたことでしょう。



動物の世界での夫婦の形は様々あります。一夫一妻、一夫多妻、多夫一妻、乱婚もあります。

一夫一妻の番による子育てが進化した重要な要因は、雛にとって餌を得にくい環境では、両親が協力して餌を集めなければならないことです。但し、孵化した雛が綿羽に包まれ、すぐに歩け、餌も自力で採れるキジ目等の早成性の鳥は一夫多妻や乱婚が多いのです。一方、孵化した雛が赤裸で長期間、親からの給餌が必要な晩成性の鳥（スズメ目等）には、

一夫一妻が多いのは、この理由からでしょう。

ツルやハクチョウ、ワシ等、大型の鳥は一夫一妻の番関係を何年も続けます。これらの鳥では、雛が一人前になるのに時間がかかります。だから早い時期に子供を独立させて投資を少なくしたところで親の得るものは少ない。それよりも、ちよつと長く雛の面倒をみれば、子供の生存は確実に高まります。ここに、交尾後も番関係を保つことによる利益が生じてくるのです。

日本の鳥では、ウグイス科のオオヨシキリ、セツカが一夫多妻です。日本で唯一の多夫一妻の鳥もいます。チドリ目のタマシギです。オスより

タマシギ  
(左がメス、右がオス)



メスの方が色彩が派手な鳥で、複数のオスが各々造巣をします。各々の巣にメスが訪れ、求愛のディスプレイをし、オスと交尾し産卵します。そして、次々とオスの巣を訪れ求愛し、産卵するのです。オスは抱卵し、孵化した雛を独立できるまで養育します。

タマシギは八幡市に生息しています。

## 八幡市民文化サロン

「鳥のあれこれ」

講師：金田敦男さん

◆日時：2019年

1月15日（火）

午前10時～

◆会場：八幡市民協働活動センター

◆参加費：300円

△お問合せ▽

NPO法人22世紀八幡

ルネッサンス協会

Tel 075・981・6505

## 大谷川清掃物語 (5)

伊藤 錚治

大谷川の清掃はそれでも進み続けた。

加藤は気持ちのうえできびしい情況に立たされていたが、皆がそういうふうに感じていたのではない。或る人は気楽に参加していた。もともとこの活動は、町の清掃活動を展開している中で、川も汚いなあという想いから参加が始まったのだ。そんないきさつもあり、町の清掃活動の延長から大谷川の清掃活動に入った人には、わずかだが謝礼が支払われていた。それを楽しみにする人もいた。

もちろん、八幡ルネの活動に心を動かす人もいて、加藤の考えに賛同する人は無償で参加した。

河川敷の土砂と雑草を掘り起こし、土のうに入れて、引き揚げ機で路上に運び揚げる活動は淡々と続いた。その仲間の中に、珍しく市会議員の山内が居た。彼はまだ三十代と若く、弁も立った。目立った活動というほどではなかったが、定期的に参加するようになった。そのうち、彼は学生を連れてきた。学生のボランティア

活動は単位として取得できる制度になっていて、主に夏休みや春休みといった時期に参加した。大谷川の清掃は日曜日だったので制約を受けない面もあったろう。

多い時には、京大や同志社といった大学から男女5人が参加した。それで、清掃活動後に事務所で開催される交流会は、一時大きな盛り上がりを見せた。

参加した学生の自己紹介や、それに対する質問に花が咲いた。アルコールが提供されていたからかもしれない。

参加者はまた増えはじめた。そんな時、事件が起きた。発端は、東ヶ花の「参加者の中に金の出ている人」といえない人がいるのはおかしい!という、八幡ルネの役員会での発言からだった。役員会に気まずい空気が漂った。

加藤はその発言に悩んだが、なかなか解決の妙案が浮かばなかった。謝礼は清掃活動を長年続けている人に支払われており、大谷川の清掃にのみ参加する人には支払われていなかった。というか、町の清掃活動の延長に大谷川の清掃をとらえていたのだ。

ふたたび役員会で、謝礼問題が取

り上げられた。席上、女性役員の橋本が「大谷川の清掃は、全員無償にしてはどうですか」と提案した。

橋本の提案は、謝礼を貰っている人の立場を踏まえた発言として受け止められたのではないか。東ヶ花も同意し、この問題は決着した。

議員の山内は、昔からの加藤の知り合いだった。八幡ルネを取り組んだ市長選公開討論会に、山内は市長候補の一人である上田の事務長みたいな立場で応援していた。彼はそのとき二十代だった。

山内はその後、市会議員になった。彼は加藤に対し、同様に市会議員になるように勧めた。加藤は市長選公開討論会を主催している頃、それもいいかと考えていたが、八幡ルネの発展もあつて次第にその気はなくなった。

また、いろいろな事情が明らかになって、とてもやれる状態ではないと思うようになった。市会議員が市民のために活動するのは容易なことではない。現状では、市民のための活動はできないというのが加藤の結論だった。

少しずつ好転していく状況の中でも、問題はいくつも出てきた。

大谷川をきれいにするには、上流

からきれいにしないと駄目だ、と言う人もいた。土砂や雑草を取るよりそのままの方がいい、と言う人もいた。土砂や雑草を取るのは環境破壊ではないかという意見だ。いずれも当たっていると思う。

だが、大谷川にゴミは捨てられ、それが放置されている。

いつでもそうなのだが、現実は何をするかが大事で、切実なことなのだが、これには皆なかなか答えられない。

すでに、弥生橋からかなり遠くまで活動が進んだ。

その日の清掃が終了すると、引き揚げ機の解体にかかる。中谷は、ベニヤ板2枚分の引き揚げ機の敷板を弥生橋の下まで運ぶ。東ヶ花は同様に渡し板を運ぶ。いつもの光景である。



# 木津川を 知ろう！

3

## 木津川環境変化と 魚たち

魚たち

木津川管内河川レンジャー  
アドバイザー 福井波恵

### ■1970年頃、木津川は 魚がいて当たり前前の川

私が木津川に初めて入ったのが、  
1971年（昭和46年）ごろ。山  
城町と精華町をつなぐ「開の流れ  
橋」の横で、現在の開橋が建設さ  
れていました。

堤防を下ると石がたくさんある  
浅い水辺が広がって、石をめくると  
ヨシノボリ、ドンコ、ギギ、ドジョ  
ウ、稚魚が飛び出し、大きな石の  
下に手を入れるとオイカワは手づ



かみ。砂のあ  
る場所では、  
カマツカを素  
足で踏んで捕  
まえる人も。  
とにかく、沢  
山の魚が簡単  
にとれた時代  
です。

1990年（平成2）



### ■1990年代、変化に富んだ 環境と様々な魚たち

本格的に木津川に入るようにな  
ったのが1990年。河床低下  
が進み冠水しない河川敷には草木  
が茂って樹林が広がり、沢山のタ  
マリ・ワンドができた時代です。

砂浜も広がって  
いましたが、早  
瀬には石があり、  
平瀬には砂、深  
い淵もワンド・  
タマリもあり、  
それぞれの環境  
に適した多様な  
魚、生き物が生  
息していました。

#### ○流れのおだやかな砂・ 泥のある場所

泥のある場所



カマツカ

カマツカ、ゼゼラ、ウキゴリ、  
スジシマドジョウ、ドジョウ、ド  
ンコが生息。特にカマツカは、砂  
に潜って身を隠すので「砂もぐり」とも  
言われ、砂中の水生  
昆虫などを砂と一緒  
に呑みこみ、砂のみ  
吐き出すという砂川  
の魚です。

#### ○石のある場所

ヨシノボリ、ギギ、ヌマチチブ、  
ウナギが生息。ヨシノボリは、腹  
ビレが吸盤になっているので石に  
くっつき「イシクイ」「ゴリ」とい  
う別名もあります。



ヨシノボリ

沢山いましたが、  
2000年ごろ体  
の大きいヌマチチ  
ブの侵入と共に数  
が少なくなってい  
きました。

#### ○流れの速い所

コイ、フナ、ニゴイ、オイカワ、  
カワムツ、ヌマムツ、天然アユ、  
コウライモロコ、オオクチバス・  
コクチバス（特定外来生物）が生息。

#### ○流れの緩やかな場所

（ワンド、タマリも含む）



スッポン

様々な稚魚、タナゴ、ヒガイ  
メダカ、タモロコ、モツゴ、ムギ  
ツク、ナマス、カムルチー、イシ  
ガメ、クサガメ、  
アカミミガメ、  
スッポン、モクズ  
ガニ、タウナギ、  
ブルーギル・ウシ  
ガエル（特定外来  
生物）が生息。

#### ○ワンド、タマリ

魚たちの繁殖場所、洪水時の避難場所であり、魚たちの大切な場所です。また、ここには二枚貝が棲息し、二枚貝を利用して繁殖するタナゴ、イタセンパラが大繁殖した時期です。イタセンパラ（絶滅危惧種）はアユと同じ年魚です。

1年で成長して秋には二枚貝（イシガイ、ドブガイ）に産卵し、冬の間に貝の中で稚魚になり、春には貝から出てコケを食べて急成長し、秋に産卵して一生を終えるという魚です。したがってワンド・タマリが減少したり、一網打尽という事態が起きれば絶滅してしまうデリケートな魚です。1990年後半、発見の報道がされると密猟され、あつという間にイタセンパラは木津川から姿を消しました。しかし、タイリクバラタナゴ、カ



カネヒラ

ネヒラ、シロヒレタビラ、イチモンジタナゴなどは、細々と棲息し続け、その美しい姿で私達を魅了しています。

2013年(平成25)

## ■2010年代、変化する 木津川と生きづらい魚たち

2010年代になると、川の蛇行化が進行しました。湾曲部では高水敷が浸食されて崖になり、その



の下流では砂・石の堆積で河原が広がり、その対岸では堤防に接近するほど浸食されていくという激しい変化が進みました。

特に台風による豪雨で、大洪水が頻発する近年、この傾向が急激に進み、ワンドは砂で埋まり、タマリは樹林の中で消え、魚の良好な繁殖場所が減少しました。

中流・下流の川底は浮き石がなく、砂利・砂中心になりました。その上に、特定外来生物のコクチバスが繁殖。急流、低い水温にも耐え、何でも食えると言うオオクチバス以上の肉食魚です。笠置の上流まで進出し、アユの被害も増加しています。また、1m近く成長し、最強の肉食魚と言われるアメリカナマズも2010年以降、



成魚・稚魚とも確認されて、2018年8月、八幡市御幸橋上流で5匹の稚魚がタモ網でとれました。

魚とり遊びもできる自然豊かな木津川ですが、生き物にとっての環境は確実に悪くなっています。

1990年代のような木津川を取り戻そうと、淀川河川事務所、京都大学、やましろ里山の会、河川レンジャー、地域住民が一緒になって2015年、玉水橋下流の左右河川敷に6基の竹蛇籠を設置し、2017年には中聖牛3基を設置しました。竹蛇籠の中には、石が詰めてあるので石環境を好むギギ、ヨシノボリ、ヌマチチブ、カジカなどが多く棲みつくようになり、もちろん、多くの水生昆虫が生息する場所となり、様々な魚も集まっています。また、中聖牛の設置により小さなタマリが形成され、古いタマリにも水が流入し、タナゴの稚魚が集まるなど効果が出ています。

今年も、木津川の防災・環境を

共に強化するため、さらに3基の中聖牛の設置を進めています。安全で豊かな環境の木津川を子ども達に残してやりたいものです。

↓玉水橋下流右岸河川敷の中聖牛



## 編集後記

「きずな」第7号をお届けします。今回も、渚屋六丸さんの落語や加藤さんの仏像彫刻などの文化活動、金田さんの鳥の話や、福井さんの木津川の環境の変化と魚の報告など、自然・環境問題に関わる記事が寄せられました。また、小笠原さんの俳句への思い、伊藤さんによる「大谷川清掃物語」に託した運動の紆余曲折の話もありました。一方で、天皇代替わりを巡る問題、宗教と社会の問

## ◆協賛金のご協力をお願いします◆

(郵) 00940-8-196292

NPO法人22世紀

八幡ルネッサンス協会

(銀) 京都銀行男山支店

普通預金 4165224

NPO法人22世紀

八幡ルネッサンス協会

題、少年犯罪と法の在り方など社会的なテーマも取り上げられました。ことに、天皇代替わりの問題では、日本の皇室に親近感を持つ人も批判的な方も、日本国憲法と象徴天皇制が抱える問題について考える糸口が与えられたように思います。

なお、天皇代替わりについて、本誌の千葉宜義さんに登場していただき、3月12日の八幡市民文化サロンでお話していただくことになりました。当初、石野喜幸さんによる「八幡市の環境条例」に関する話を予定していたのですが、それは次年度以降にお願いすることになりました。主権者として、この問題とじっくり向き合って考えたいと思います。ふるってご参加ください。

—「きずな」編集委員会—